



第8次氷見市総合計画
富山県氷見市

第 8 次
氷 見 市
総 合 計 画
2 0 1 2 ▶ 2 0 2 1
概 要 版

人 自然 食を未来につなぐ交流都市 ひみ



- ごあいさつ 2
- 総合計画の策定にあたって 3
 - 第8次氷見市総合計画策定の趣旨
 - 計画の役割・性格
 - 計画の構成と目標年次
 - わたしたちの氷見市を取り巻く状況
- 10年後の氷見市の姿 6
- 施策の体系 7
- 重点プロジェクト 9
- 前期基本計画（平成24年度～平成28年度） 11
- 暮らしづくり 11
 - ～便利で快適な質の高い生活ができるまち～
 - 1 安全で安心につつまれた生活の確保
 - 2 健やかで心安らかな暮らしの充実
 - 3 利便性の高い生活基盤の整備
 - 4 自然と調和した生活空間の創造
- 人づくり 13
 - ～多様な人材が生き生きとかがやくまち～
 - 1 親子の笑顔がきらめく環境の整備
 - 2 「生きる力」をはぐくむ教育の充実
 - 3 学びによる豊かな人生の創造
 - 4 地域を支える市民活動の活性化
- 元気づくり 15
 - ～みんなが集まるにぎやかで活力のあるまち～
 - 1 氷見の食・ブランドの確立
 - 2 地域特性を生かした産業の振興
 - 3 競争力の高い魅力ある観光都市の形成
 - 4 将来に夢が持てる雇用の創出
 - 5 多様で活発な交流の促進
- 持続可能な自治体経営の確立 18
 - ～地方分権時代に対応した自立したまち～
 - 1 誰もが主役のまちづくりの推進
 - 2 スリムでわかりやすい行政の実現
 - 3 周辺団体や国・県等との連携強化



ごあいさつ

氷見市は、これまで、食・自然・歴史などの豊かな地域資源や人々の間で培われてきた温かい絆等を生かした多種多様な政策を推進することで、市内のいたるところで活気があふれ、市民が安心して暮らすことができるまちを目指してまいりました。

昨今は、人口の減少や少子高齢化が進行していることに加えて、東日本大震災を教訓として安全・安心に対する関心が高まっていることなどから、市民と行政がより近い関係のなかで地域づくりに取り組んでいく必要があります。

また、能越自動車道や北陸新幹線などの広域交通網の整備を大きな飛躍の契機とするため、産業の振興や交流人口の拡大を戦略的に展開していくことも重要になっております。

このたび、市制施行60周年という節目の年に当たり、新たなまちづくりのスタートラインに立つ決意のもとで、平成24年度を初年度とする第8次氷見市総合計画を策定いたしました。

第8次氷見市総合計画では、目指す都市像を「人 自然 食を未来につなぐ交流都市 ひみ」とし、「暮らしづくり」「人づくり」「元気づくり」「持続可能な自治体経営の確立」の4つの分野で総合的・体系的に市民の皆様との協働のまちづくりを進めていくこととしております。

また、本計画では、この10年間で特に優先的・重点的に取り組む「重点プロジェクト」を設定し、21世紀における氷見市発展の礎を築くとともに、市民一人ひとりの幸せづくりを図ることとしました。

これらの取り組みを着実に推進することで、市民の皆様や本市を訪れる方々が、「住んでよかった」、「来てよかった」と実感するとともに、次代を担う子どもたちが、愛着と誇りを持てる「ふるさと氷見」の創造に努力してまいり所存であります。

計画の策定に当たり、貴重なご意見やご提言をいただきました市民の皆様や参画いただきました関係の方々に、心より感謝の意を表しますとともに、今後とも格別のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

氷見市長 堂 故 茂

01

第8次氷見市総合計画策定の趣旨

近年、人口減少・少子高齢化の進行、価値観の多様化、経済の減速、東日本大震災の発生など、私たちを取り巻く社会環境は大きく変化しています。

また、地方分権の進展により、地方自治体には、将来を的確に展望し、自己責任の行政経営を着実に実行することが求められています。

このような中、氷見市の発展を図っていくためには、市民、NPO、企業、行政といった多様な主体が互いに手を取り、協働していくことが大切です。

これらのことを踏まえ、多様な主体がともに取り組む新しいまちづくりの指針として、「第8次氷見市総合計画」を策定しました。

02

計画の役割・性格

市民が主役のまちづくり

市民と行政がまちづくりの目標を共有化

「氷見らしさ」を生かす

歴史・文化、自然景観、人の絆、地域資源などを生かして市民の力を結集！

まちづくりを着実に推進

限られた経営資源（人、物、財源、情報等）を有効活用

協働によるまちづくりへの取り組み

「オンリーワン」「ナンバーワン」を目指す

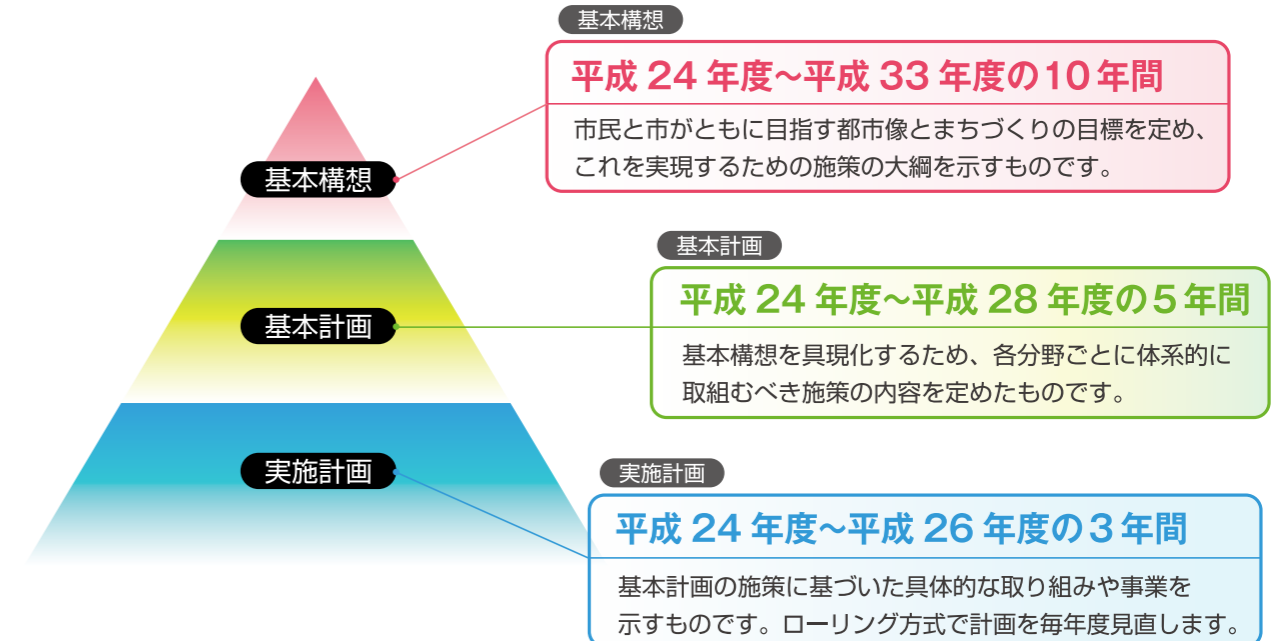
戦略的・重点的な施策を展開

03

計画の構成

総合計画は、10年後の市の目指す都市像を明らかにし、その実現に向けたまちづくりの目標や方向性などを総合的に示すもので、これからの市政運営の指針となります。

第8次氷見市総合計画では、計画期間を平成24年度から平成33年度までの10年間とし、基本構想、基本計画、実施計画で構成しています。



計画の目標年次

年度	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
基本構想 (10年)	→									
基本計画 (5年)	(前期基本計画) →					(後期基本計画) →				
実施計画 (3年) ※毎年度見直し	→			→			→			

05

わたしたちの氷見市を取り巻く状況

安全・安心意識の高まり

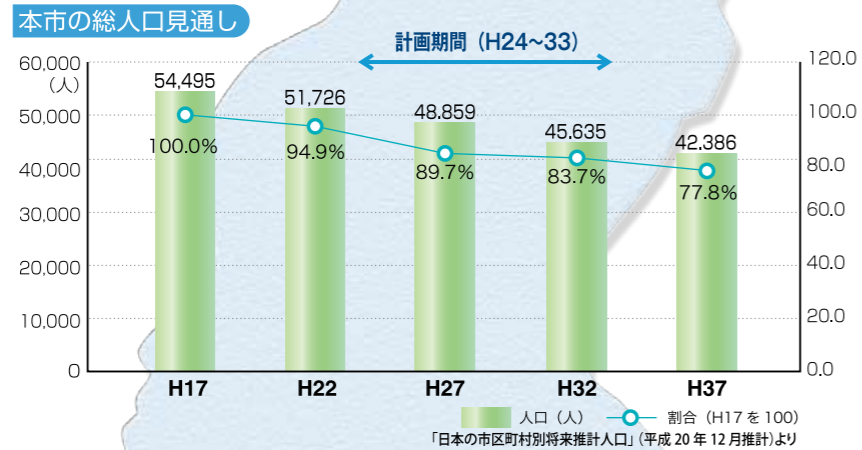
- 大震災や自然災害などの教訓
- 「食」の安全性への意識の高まり
- 高齢者や子どもを狙う犯罪への不安の増大

防災体制の見直しや日常生活の安全確保が必要

人口減少・少子高齢化の進行

人口減少・少子高齢化が進行
(平成22年人口51,726人→平成32年推計人口45,635人)

交流人口の拡大、子どもを産み育てる環境の整備、健康づくりの推進、地域の社会機能の維持などが重要



広域交通の活用と情報化の進展

- 能越自動車道、東海北陸自動車道などの道路ネットワークの拡大
- 北陸新幹線長野・金沢間の開業(平成26年度)
- コンピュータやインターネットなどの技術革新による情報通信の高度化

広域交通基盤を活用した物流や観光ネットワークの形成、付加価値の高い新産業の創造のチャンスに

医療・福祉・介護や教育分野への活用が課題

地方分権時代の到来

国から地方自治体への権限委譲が進む

- 市には自己責任のもとで個性と活力あるまちづくりが求められる
- 地域では住民が主役のまちづくりが進む
- 自治会、ボランティア、NPO法人、企業など多様な主体によるまちづくりが重要

経済のグローバル化、環境問題

国境を越えた経済活動の活発化と市場の拡大

本市に拠点を置く企業等の育成強化が必要

地球的規模での環境悪化

自然への負荷の少ないライフスタイルの普及、新エネルギーの活用、森林の整備などが重要

基本理念

まちづくりの考え方

氷見市は、「ひみ寒ぶり」に代表される食、海から里山まで広がる豊かな自然、定置網漁業等の歴史・文化などを受け継いできました。これらの個性を大きく花開かせながら、内外との積極的な交流・連携を展開し、市民がふるさとして自信と誇りを持ち、心のゆとりと温かみを感じて真に質の高い生活が実現できるまちを目指します。

また、地域社会の中に色濃く残っている人の絆を大切に、地域力の向上に努め、地域での新たな支え合いの仕組みを構築するとともに、すべての市民が心身ともに健康で幸せに暮らすことができる環境を整備し、安全・安心を実感できるまちを実現します。

氷見市の目指す都市像

『人 自然 食を未来につなぐ交流都市 ひみ』

目指す都市像 **人 自然 食を未来につなぐ交流都市 ひみ**

まちづくりの
基本目標

暮らしづくり ▶P11

便利で快適な質の高い生活ができるまち

人づくり ▶P13

多様な人材が生き 生きとかがやくまち

元気づくり ▶P15

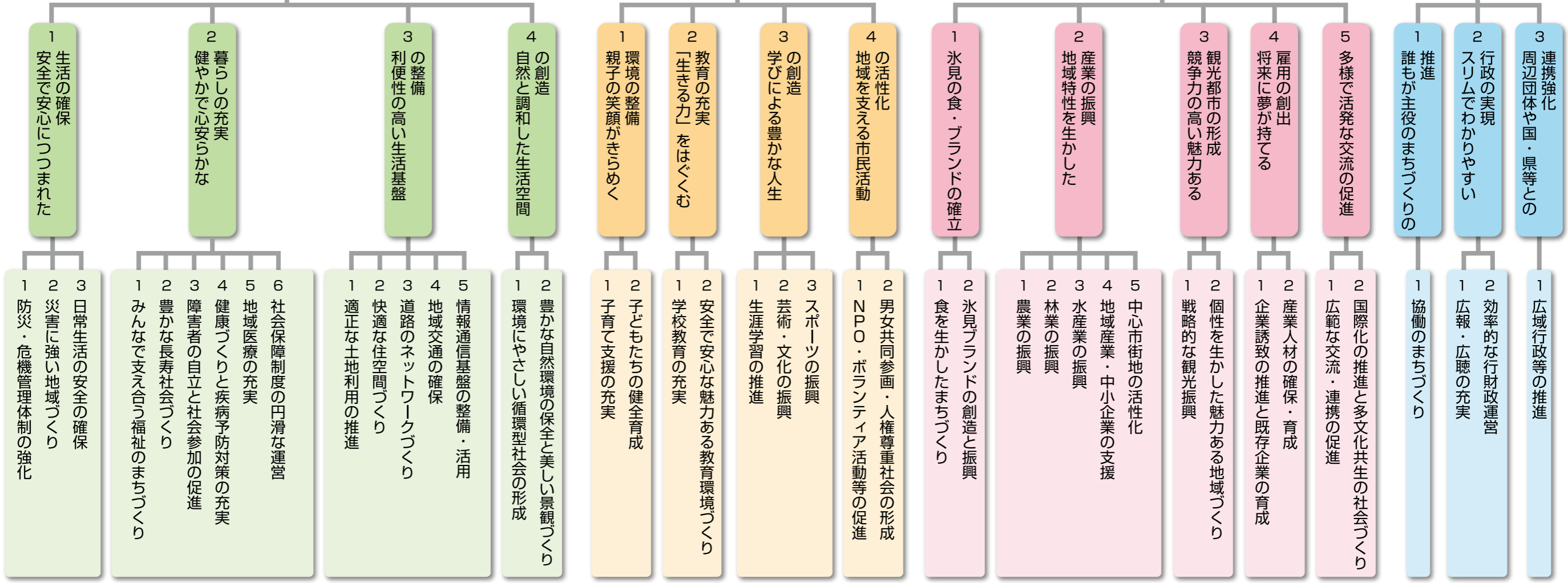
みんなが集まるにぎやかで活力のあるまち

持続可能な自治体経営の確立 ▶P18

地方分権時代に対応した自立したまち

政策

施策



▶P9
優先的・重点的に取り組む
重点プロジェクト

- 防災・安全ネットワーク構築プロジェクト
- あったか子育て充実プロジェクト
- はつらつ長寿社会実現プロジェクト
- 1町19ヶ村の地域力発揮・向上プロジェクト
- きれいに満ちたまち創造プロジェクト
- ふるさと教育・地域リーダー育成プロジェクト
- スポーツ・芸術文化振興プロジェクト
- 新地域産業創造プロジェクト
- 300万人交流推進プロジェクト
- 食のブランド創造・発信プロジェクト

目指す都市像を実現するために
今後 10 年間で重点的に取り組む

重点プロジェクト

目指す都市像を実現するため、特に重点的かつ戦略的に取り組むべきテーマを設定し、
その達成のために効果の高い事業等を重点プロジェクトとして位置付けます。

これらのプロジェクトを着実に遂行することにより、

多くの方々が本市に「住んでよかった（定住）」と実感していただけるまちを創造します。

1 防災・安全ネットワーク構築プロジェクト

災害等の様々な危機に備えるとともに、消防・救急・医療・福祉などの体制を強化・整備することで、セーフティネットの行き届いた安全で安心な生活を確保します。

- 東日本大震災を教訓とした津波ハザードマップの見直しや原子力災害対策の強化
- 防災行政無線デジタル化の推進
- 自主防災組織の防災力の強化
- 災害に強い道路ネットワークの構築
- 消防・救急車両の整備
- 市民病院高度医療センターの整備 など



2 あったか子育て充実プロジェクト

子育て相談・支援体制、保育サービス、食育や子どもの健康づくりなどを充実することで、子どもが健やかに育つ環境を整備します。

- 子ども医療費助成の充実
- 特別保育サービスの充実
- 食を通じた子どもの健全育成の推進
- 幼保小連携教育や小中連携教育の推進
- 親学び研修会や講演会の拡充 など



3 はつらつ長寿社会実現プロジェクト

市民が生涯にわたって心身ともに健康で幸せに暮らせる環境を整備するとともに、高齢者の地域活動や社会参加の取り組みなどを支援し、「生涯現役」を促進します。

- 足腰元気教室（通所型介護予防教室）の充実
- ボランティア活動等への参加促進
- コミュニティビジネスの促進による雇用の場の創出
- 子どもや若者など異世代との交流促進 など



4 1町19ヶ村の地域力発揮・向上プロジェクト

旧町村の枠組みの中での支え合いのコミュニティ活動を促進し、地域の多様な主体が協働した取り組みを支援することで、地域力を高めます。

- 地域づくり協議会（仮称）の組織づくりの促進
- 地域担当職員制度の導入
- 地域ぐるみ除排雪の促進
- 安心生活創造事業の推進
- 過疎地有償運送（NPOバス）の促進 など



5 きれいに満ちたまち創造プロジェクト

自然景観や生態系などを保全・活用するとともに、地域を花と緑で彩るなど、快適な居住環境づくりを推進します。また、省資源・省エネルギーを実践する環境にやさしい生活を促進します。

- 漁場環境・生態系の保全活動の促進
- 市民総ぐるみの清掃活動の推進などによる自然景観の保全
- 新エネルギー導入の促進などによる循環型社会の形成
- 緑花推進協議会の設立促進
- 桜の名所の再生 など



6 ふるさと教育・地域リーダー育成プロジェクト

ふるさとの歴史や文化、自然などに対する理解を深め、ふるさとを愛する子どもを育てます。また、将来に夢や目標を持った地域づくりの中核を担う人材を育成します。

- 氷見の教育基本方針の推進
- ふるさと発見塾、ふるさと学び応援事業等の推進
- クリエイト・マイ・タウン事業のメニューの充実
- 氷見まちづくり塾の開催などによる地域リーダーの育成 など



7 スポーツ・芸術文化振興プロジェクト

スポーツ施設の整備・充実やスポーツに親しむ機会の拡充を図るとともに、多彩な芸術・文化に触れ親しむことができる環境を整備します。

- 野球場の整備や全国大会の開催などスポーツ施設の整備・活用
- トップアスリートによる講演・指導者講習会等の開催
- 一流アーティスト等に触れる機会の充実
- 獅子舞等の優れた伝統文化の振興 など



8 新地域産業創造プロジェクト

6次産業化や農工商連携により、氷見のポテンシャルを生かした商品やサービスを生み出す産業を振興します。また、中山間地域の資源の発掘・利活用につながる創業や新事業進出などを促進します。

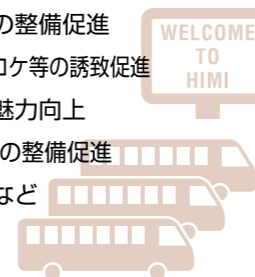
- 地域資源の発掘による新商品・新サービスの開発促進
- 6次産業化、農工商連携等の取組みの促進
- 産学官の連携の強化
- 人材育成等によるベンチャービジネスの促進
- 大規模工業用地の確保 など



9 300万人交流推進プロジェクト

「オール氷見」によるにぎわい創出のための交流・観光拠点の整備など、幅広い分野での交流・連携に取り組みます。また、地域資源を本物の魅力として磨き上げることやホスピタリティの醸成などにより、更なる交流人口の拡大を図ります。

- 食文化発信・温泉活用施設の整備促進
- 藤子キャラクターの活用や映画ロケ等の誘致促進
- ひみ田園漁村空間博物館の魅力向上
- 周遊バスの導入など二次交通の整備促進
- 都市農山漁村交流の促進 など



10 食のブランド創造・発信プロジェクト

魅力ある特産品や料理等の開発、一村一品運動を進めるとともに、「食」の氷見ブランドの知名度を高めるため、積極的なプロモーションを展開します。

- 一村一品運動の推進
- 「ひみ寒ぶり」のブランド力の強化
- 農産品ブランドパワーアップ支援
- 首都圏等での氷見フェアの開催など積極的なPR活動の展開
- ご当地グルメの開発の促進 など

